

三 二 災 害 支 援 講 座

台風や集中豪雨で毎年のように耳にする「〇〇川が氾濫した」「家が浸水した」などの言葉…
今回は知っているようでわからない「水害の対策」を紹介します。

浸水

商業施設や住宅といった建物の内部や車内に水が入り込む状態。一般の家屋では50cm以上水に浸かると床上浸水、それ未満だと床下浸水の恐れあり。

■ 住宅浸水を防ぐ方法

土嚢…ホームセンター等で入手可能

水嚢…二重にした40Lほどのゴミ袋に半分ほど水を入れて口を閉め、玄関などに隙間なく並べる。

段ボール箱に詰めたりレジャーシートで包むと強度が増す。トイレや排水溝に置くと下水の逆流を防ぐこともできる。



氾濫

河川の水が増大し、河川敷内部や堤防の外にまで勢いよく水が溢れ出る状態。「外水氾濫」=河川から市街地などに水が溢れること。「内水氾濫」=市街地に降った雨に下水道などの排水が追いつかず水が溢れること。過去の事例では、**50cmの水深(大人の膝)**で避難が困難となっている。

■ 徒歩での避難

長靴はNG!…長靴は水が入ると動けなくなるため**スニーカーなど滑りにくい靴**の方が良い。

高いところに留まることも選択肢の一つ

■ 車の走行

～10cm未満(道路の縁石見える)…走行可能

10～30cm(タイヤの下半分が浸かる)…原則走行禁止

30～60cm(タイヤがすべて浸かる)…車内やエンジンルームも浸水する恐れあり。

車体が浮き始め、移動が困難になる場合がある。

60cm以上(車のフロア上まで浸水)…エンジンが故障し停止する可能性が高い。水圧でドアが開かなくなることもあるため、電装系が機能している間に窓を開け、避難経路を確保しておく必要あり。



水没した車からの脱出

■ 緊急脱出用ハンマーで窓から脱出する

ハンマーがない場合はヘッドレストで代用可能!

[1]ヘッドレストの片方の棒を窓の隙間に差し込み、一気に手前に倒す。

[2]それでも窓が割れない場合、ヘッドレストの両側の棒を使って思い切り窓ガラスをたたく。

■ 外の水位との差が小さくなったときが、脱出のチャンス

窓から脱出できないときは、車内と外の水位が同程度になるのを待つことでドアにかかる圧力が小さくなり、ドアが開けやすくなる。